

- ◆実践校名 守口市立錦小学校、寝屋川市立明和小学校、寝屋川市立木田小学校、門真市立四宮小学校
四條畷市立岡部小学校、四條畷市立四條畷小学校
- ◆主題名 あいてのことを **道徳の内容** A－希望と勇気、努力と強い意志 B－親切、思いやり
- ◆ねらい 相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする態度を育てる。

◎ 中心的な発問

一郎と将太のちがいはなんだろう？

◆ 本時の展開

	学習活動	発問と予想される子どもの反応	指導上の留意点及び評価
導入	◎「やさしくすると」 この続きを考えよう。	① 「スッキリする」「自分も相手もうれしい」 「気持ちがよくなる」 ② 「ほめられる」「お礼を言われる」 ③ 「喜んでもらえる」(そう教えられた、そうすべきだからという意味合い) ④ 「怒られない」 「このお話の中には、やさしさがあるかな？探してみよう。」	○思いやりについて自分の現時点での考えを出させる。 ○4つの心のあり様を指導者は意識して板書する。「やさしくする」という心のあり様には4つあるのでは？と問い返す。 ○心のあり様が、報酬目当てだから、ルールだから、自己満足だから、相手のためにしなくてはいらないなのか、押さえる。
展開	◎資料を読む。 ◎資料の中のやさしさを見つける。 ◎将太の心の有り様の良さに気付く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> どんなやさしさが見つかったかな？ </div> 将太が C：「コツを教えたるわ」 T：「なぜ教えただろうね」 T：「先生でも教えられるよ」 C：「先生と将太君では意味がちがう」 (この違いをはっきりさせる。一生懸命練習した将太でしかわからない気持ちに気付かせる。) C：明弘の手をとって立ち上がらせた T：どうして手を取って立ちあがらせたの？ (できないときの悔しさを知ってるから。過去のできない時の将太に気付かせる。) C：ささえて、「安心して回ってみ」と教えた。 T：折角練習して自慢できるのに、なぜ教えちゃうの？ (頑張ってできるようになったから、同じ思いと一緒に味わいたいから。未来の姿に気付かせる。)	○3つの心構えを確認 ○「なぜそんなことをするのか？しなくてもいいじゃん」と問い返し、一郎の心に迫る。 ○導入で分けた4つの心のあり様のどこか？考える。 ○がんばった後の気持ちの方向の違いに気付かせる問いかけをする。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">展開</p>	<p>◎将太と比較することで一郎の取った行動の気持ちを考える。</p> <p>◎一郎の後悔したときの気持ちを考える。</p>	<div style="border: 3px double black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>一郎と将太の違いは何だろう？</p> </div> <p>「将太と同じように練習してできるようになったのに、一郎はまったく違う態度をとったね」 (つぶやきを少し拾う)</p> <p>「なぜ違ったんだろう？一郎と将太の違いって何だろう？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将太は、アンパンマン、一郎はバイキンマン。 (詳しく教えて？) ・将太は、相手のことを考えたけど、一郎は、自分のことしか考えていない。 (自分のことしかあってどうということ？) ・将太は優しい、一郎はバカにしている。 (なんでバカにしているの？) ・将太は一緒に上手になりたかった。一郎は、自分だけ上手ならそれでいい。 (一郎は、ひどい人だなあとさえ、いや最後に気付いているよとつぶやく。そこで一郎の後悔に気付かせる。) ・最後は、将太と同じ気持ちになったんじゃない。だって・・・。 ・一郎は、これから苦手な子に教えるようになるよ。やさしくすると、自分も成長できるんじゃない。 	<p>○あまり意見がでなかったら、 「あなたならどちらと友だちになりたい？」の方が意見がでやすいだろう。</p> <p>○優しきは広がっていくということにも気付かせたい。</p> <p>○人間には、優しい気持ちと意地悪な気持ち、両方ともあることに気付かせる。</p> <p>○将太と一郎の過去、未来にまで目を付けて考えさせる。</p> <p>○一郎の「かっこうわるいな」と思った時の気持ちまで踏み込ませる。(ここまで心の有り様を考えた、一郎のかっこうわるいと言った時の気持ちを聞いてもいい。)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">終末</p>	<p>◎「やさしくすると」の続きを考える。</p> <p>◎授業で気づいたことを黒板に書こう。</p>	<p>「優しい人とはどういう人だと思いますか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優しい人は気持ち強い。 ・優しい人は、自分のためとか、褒められたいとかじゃなくて、相手のことを考えて行動している。 ・優しい人は、友だちと一緒に成長できる。 ・優しい人は、相手が嬉しいと自分も嬉しい。 <p>あるいは、授業の流れ次第ではこの発問でも。</p> <p>「人は優しさもいじわるな気持ちも両方持っているね。やさしい気持ちになるにはどうしたらいいかな」</p> <p>「今日の授業で学んだことを黒板に全員で書いてみよう」</p> <p>「家でお家の人と感想を書いてこよう。」</p>	<p>○全員に今日の授業での気づいたやさしさについて、黒板に書かせる。</p> <p>○道徳ノートに感想を書く。(2学期以降は家でお家の人と一緒に書く。)</p> <p>評価は、授業後の感想で見る。</p> <p>例えば、「一郎の変わる姿から、たとえ失敗があっても人は変わるよさがある」「資料の中から自分もそういう人になりたいなあ」という理想の姿を見出した内容が書かれているといい。</p>

◆研究のまとめ

○授業実践について、チームとしてのまとめ

授業をすると、やさしいかやさしくないかの二分化になってしまった場面もあったことが課題であった。ただ「やさしいと善い・やさしくないと悪い」のようになってしまうと、児童の感じたところがどのようにになっているかが詳しくは分からないと感じた。やさしさという言葉の表面的なところだけでなく、そこからその後を考えさせたり、次の道徳学習につなげたりできればよいと思った。やさしさを押し付ける授業にならないようにしたい。そのためには、しっかりと思いを文章化できる指導をしていくことが必要だと感じた。

また内容項目にせまりながら、価値をこちらが追求していく姿勢を大切にしたい。その道徳学習をすることによって何が児童に残るのかを教材研究し、児童の実態に合わせた指導をしたい。

今回一つの指導案でそれぞれの学校の学級で授業したので、児童の実態を教師が把握することの大切さを改めて感じる事ができた。

これからも、このチームで学んだことを活かしつつ、道徳的価値を追求していきたい。

○道徳の評価についての提言

【ワークシートでの評価】

- ・キーワードがワークシートの中に出てきているか確認する。
- ・感想を書かせるだけでは深まりが充分でないので、自分のまとめを書かせるようにする。(情緒面だけでなく認知面も)
- ・最初にテーマを与え、最後に書かせる。
- ・最初と最後でどのようにかわったか。(変化が表面化した子のみの評価になることが課題)
- ・登場人物のようになりたいと振り返りができているかを確認する。
- ・関連のある過去のワークシートと比較し、道徳的価値に深まりが出ているかを確認する。

【ワークシート以外での評価】

- ・ワークシートにうまく書けない子の評価が難しい。そのため、つぶやき、発言、日頃の行動も見ていく必要がある。

【各校での実践の記録】

◆実施学年 （4年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

○発問から

知的なねらいは「相手のことを思って行動することの大切さ」、情的なねらいは「自分にも困っている子を助けたいという気持ちがあること」、意欲的なねらいは「誰かが困っている時、自分も相手のことを考え、今自分にできる一番いいことをしたい」と設定した。知的なねらいを達成するために「将太は、なぜこんなことができたのか？先生に教えられたから？怒られたくないから？帰りの会で褒められたいから？」と問いかけた。「明弘のためにやりたい、自分ができなかったことを思い出して親切な行動をした」など相手のことを考えて行動することが大事だという意見が出された。また「何もしないというやさしさもあるのではないか？」と問いかけることで、この場合は、鉄棒を教えることが一番いい方法だと判断した心の拠り所まで考える意見が出た。

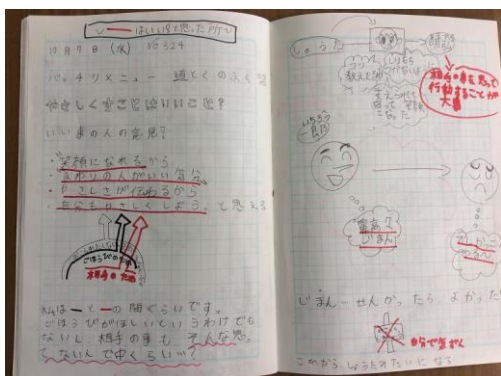
情的、意欲的なねらいのため、「一郎は、最初は優しさを持っていなかったんだね。将太の姿を見て初めて知った？」という発問から、優しい心は誰にでもあるが、時には意地悪な心が勝ってしまうこと、「最初はバカにしていた一郎だけど、いいところあるね。そんな気持ちに気付けた一郎はこれからどうなるかな？」という発問から、「自分にもそんな気持ちがあること」「これから先、優しい気持ちを持って友だちに接することができるようになる」という未来に向けて、自分の行動をどうするかまで考えを深めることができた。

○振り返りより

ご褒美や褒められたいという気持ちから親切をしている気持ちが強かったが、今回の授業で、相手のことを考え、今自分にできることをこれからしていきたい、今相手がしてほしいと思っていることを考えて行動していきたいという意見が多く出された。

○成果と課題

資料を道徳的価値に基づいて並び替えた結果、前時までで扱った「やさしさ」「思いやり」「きまり」「思慮反省」の価値が授業の中で表れた。道徳的価値の言語化で前時までの評価も同時に行えた。また授業の中で、キーワードとして「相手のことを考え、今自分にできることをする」を取り上げたため、子どもたちの作文、振り返りノート等で何度も出てくることになった。キーワードとして残すことで、授業後も評価できるという成果があった。



◆評価に用いた資料サンプル（子どものワークシートなど）

道徳ノートを活用し、知的、情的、意欲的ねらいに関する意見が見られるかどうか、判断した。右のノートでは、一言「しょうたみたいになりたい」としかないが、しょうたのような人になりたいという意欲的な面で評価したいと考える。

実践校名（ 守口市立錦小学校 ）

◆実施学年（3年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

授業で「さかあがり」の内容に関する発問を2つとふりかえり1つをワークシートに書いた。なお、評価はふりかえりで行った。

<将太のようにになりたい>という意見が多かった。また<一郎の弱さ>はよく分かっていた。しかし評価するねらいを、ふりかえりで言葉として書いている児童が少なかった。

ワークシートの内容

発問① 人にやさしくするのは、どういう気持ちからでしょう。

発問② 将太と一郎のちがいは何でしょう。

ふりかえり 「さかあがり」を読んで考えたことや、友だちの話を聞いて心に残ったことを書きましょう。

自分の意見が書きにくい児童に対しては、友だちの意見で共感したものを書いて良いという指示で支援した。

○成果と課題

評価する道徳的価値をもっと明確にすると、ねらいにせまりやすいと感じた。

また、ワークシートに残して1年間の学習の様子をファイルにするとよいと感じた。（ノートでもよいと感じた。）課題は、ふりかえりの重点を、友だちの意見を聞いているかなどに置いていた事である。

道徳的なねらいを言葉にできているかを、ふりかえりに書かなければ、評価がしづらいことが今回分かったので、修正していきたい。

◆実施学年 （3年）

◆評価を位置付けた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

●授業中での評価

子どもの発問に対する発表やつぶやき等を評価した。今回の指導案では、一郎と将太を対比しながら、進めていった。範読を終えたところで、「一郎は、悪いヤツや。」という声が、児童から上がり、その後も、その考えを持ったままの児童がいた。

一郎の変容する心に寄り添えていないと感じたので、最後にその部分について、発問し、意見を交流した。

●ワークシートによる評価

最後の振り返りをワークシートに記入する形をとった。

- ① 一郎の批判
- ② 将太の行動への賞賛
- ③ 一郎の心の変容の理解

の三種類に分かれた。

②を書いている児童が多く、③に触れている児童は少なかった。また、範読の際、一郎に対して、批判的な発言をした児童たちは、振り返りでも、①を書いている児童が多かった。

○成果と課題

今回の授業では、子どもたちの意見の交流を大切にして授業を進めたいと考え、最後のふりかえりでワークシートを記入した。そのため、途中でのそれぞれの児童の思いが、拾いきれなかった。また、聞く力が弱い児童は、じっくり考えることができなかった。

今後は、途中の発問に対しても考えを書くことで、落ち着いて思考する時間を設け、子どもたちの思いを拾い上げながら、授業を進めていきたい。

◆実施学年（４年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

- 児童の中には、「将太はやさしい」「一郎はやさしくない」というような表面的な考えになりかけたが、教師の体験談「やっと見つけたゲームの攻略法をすぐに教えたくない気持ち」や「自分だけがテストで百点をとったときや自分だけができたときの嬉しい気持ち」を話すことにより、自分たちにも一郎のような心があることに気付かせることにより考えが深まった。
- 中心発問「最初と最後で一郎の気持ちが変わった理由はなんだろう。」では、将太のやさしさに気付くことは児童にとって容易と感じる。しかし、一郎のような心（表現が適切ではないかもしれないが、ケチな心であったり、みんなに「すごい！」と思われたい心）は少なからずだれにでもありえることで悪いことではないということに気付かせた。一郎は何度も練習するなど努力をしていること、思ったこと（相手を傷つけること）を口にしていないこと、将太の行動をみて、すぐに一郎の隠れていたやさしさが顔を出したことなど、一郎のやさしさにも気付けるようにした。

○成果と課題

- ※ねらいや内容項目にそったふりかえりが書かれていると、それについて評価する。
ねらいにそっていないが、友達の意見を聞き、しっかり考え、本音を出し、活発に発表する児童に対しては、教師がねらいに近づけるようしむける必要があるのか疑問が残った。
- ※子どもたちの発言したこと、ワークシートやふりかえりに書かれていること、表情などから子どもたちの心进行评估することは、難しいと感じた。また、授業中だけでなく、休み時間や掃除時間などの学校生活全般での子どもたちの行動の変化なら、わかることも多いように思われるが、授業の中で評価することは自信がない。
- ※所見での評価は、一見、具体的なようにも感じるが、保護者にはわかりにくいように感じる。内容項目の一覧から学習したものを記すことの方が伝わるのではないか。

◆実施学年（3年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

・最初の「かっこういい」について考える場面では、ホワイトボードを使った評価を行った。全員の子の意思表示が確認できるので有効であった。

・中心発問の場面では、まず自分の考えをワークシートに書き、そのあとグループでの交流を行った。ワークシートにはほとんどの児童が自分の考えを書くことができていた。「将太は明弘におしえてあげたのに、自分は見ているだけで何もしなかったから」といった、将太の行動とくらべて書いている児童がほとんどだった。また、「できない子を見てばかりにしたから」という考えもあった。

友だちとの交流で、ほとんどの児童が友だちの考えと自分の考えが似ていることで安心したり、どちらの考えもあることに気付いたりすることができていた。

・自分なりの「かっこういい」をまとめる場面では、ワークシートからほとんどの児童が「自分だけでなく、友だちに手助けできること」「優しい人」「思いやりのある人」などを書けていた。その中でも、「見た目やすごい技をもっていることだけじゃない」「いぼったりじまんしたりすることじゃない」などを書いている児童もいた。

・ふり返りでは、「自分も困っている人を助けたい、優しくしたい」と自分の生活に活かそうとしている児童が16人。「かっこういいとは人をたすけること、優しくすること」というねらいとする価値に気付いている児童は15人。「一郎もかっこう悪いときづけてよかった」と別の価値に気付いた児童が1人。文章の表記がむずかしい児童が2人いた。

○成果と課題

・本授業は、最初に本時のめあてとして「本当のかっこういい」とはどんなことか、を考えることを伝え、ねらいとする価値である親切・おもいやりに近づく方法を取ってみた。子どもたちにとっては、この時間で何を考えたらいいいのかが明確であったと感じた。

・評価の方法としては、全員が意思表示のできるホワイトボードは有効である。

・ワークシートによる評価は、後で教師が見るものとしては有効だが、文章表現がうまくできない児童に対しては評価が難しい。

◆実施学年（3年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

○一郎の気持ちを考える場面から

- ・一郎の行動を良くないことだと考える児童が多かったが、話の中のことであり、現実味を感じていない様子が見られたので、自分の場合はと振り返る必要があると考えた。指導者から、「こういうことない？」「一郎っていじわるやねえ」と問いかけると、「自分にもそういうところある」「でも、一郎は変わった」といい、自己主張の強いA児が「やさしさが伝わるんや」「俺もしてもらったことがあるから、自分の得意なことはやらなあかん」と発言した。

○振り返りの場面の発表から

- ・「やさしくすると・・・」最初に問いかけた時には、自分のことばかりを話していたが、「どんなやさしさを見つけたことがある？」など、他者から感じるやさしさについて発言し合い、意見を聞き合ううちに、「やさしさは、伝わるんや。」「やさしさは、広がっていく。」とつぶやく児童がたくさんみられた。又、振り返りシートでは、「やさしさは、ひろがっていくから、自分もやさしくしたい。」と書いた児童がいた。

○成果と課題

- ・ワークシートなどを書き考える授業は、自分以外の友だちの意見を知ったり、自分がその時間どう思っていたのかを授業後に振り返る手立てとなると思う。
- ・「やさしさが広がること」「自分に置き換え、次、手助けするやさしさをもちたい」など、ねらいにそった振り返りを書けていた場合について評価をした。ただし、ねらいに近づいた振り返りだけの評価することは、個々の児童によって違いがあるように思う。
- ・表現豊かな児童や発言をよくする児童など、自分の言いたいことをうまく伝えられる児童は、評価がしやすいが、心の中で色々感じてはいるがそれを表出できない児童の評価は難しいと感じた。また、その評価は、教師により差ができるように思う。
- ・道徳の評価をどのようにするのかについて、保護者に伝えるのは難しいと感じた。